

名古屋市見晴台考古資料館 年報³⁸

2020(令和2)年度事業報告

2021

名古屋市見晴台考古資料館

2020（令和2）年度

I 事業概要

1 展示

（1）本館常設展

「見晴台遺跡展－見晴台で暮らした人々－」

会期：通年

展示日数：247日

利用者数：12,381人

内容：見晴台遺跡について詳しく知ることができるよう、見晴台の歴史を、時代を追って紹介。見晴台で暮らした人々をテーマに、主に衣食住に関する出土品を展示。昭和時代では、笠寺高射砲陣地から見つかったアメリカ軍爆撃機 B29のジュラルミン破片も展示。また、見晴台遺跡第55・56・57次発掘調査で出土した遺物も展示。

展示点数：136点



「見晴台遺跡展－見晴台で暮らした人々－」展示風景

（2）本館常設展「見晴台の守り展」

会期：通年

展示日数：247日

利用者数：12,381人

内容：見晴台遺跡に残る異なった2つの時代（弥生時代・昭和時代）の防御の痕跡を紹介。時代を超えた人類の行動から、歴史を学ぶことを目的とした展示。ジオラマを製作し、視覚的に比較できるようにした。

展示点数：3点



「見晴台の守り展」展示風景

（3）住居跡観察舎パネル展「原始・古代の住居」

会期：通年

展示日数：247日

利用者数：12,381人

内容：原始・古代の建物である竪穴住居や高床倉庫、祭殿などについて、床（生活面）を持ち上げる高床式と、そうではない竪穴式（平地式）の2通りに分けて紹介。それぞれの様式の利点はどこにあるのか、現在見ることができる建物からアプローチした展示。



パネル展「原始・古代の住居」展示風景

（4）住居跡観察舎パネル展

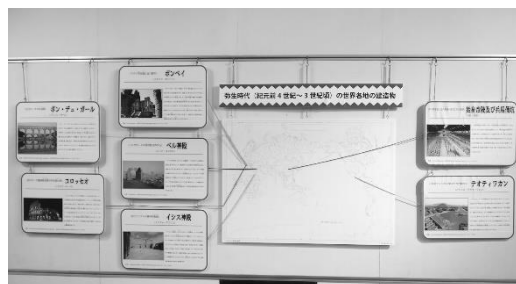
「弥生時代（紀元前4～3世紀頃）の世界各地の建造物」

会期：通年

展示日数：247日

利用者数：12,381人

内容：見晴台に竪穴住居が造られた弥生時代（紀元前4～3世紀頃）の世界各地の建造物をパネルで紹介。



パネル展「弥生時代（紀元前4～3世紀頃）の世界各地の建造物」展示風景

（5）地域連携「桜田中学校美術展」

会期：1月10日（日）～2月11日（木/祝）

展示日数：27日

利用者数：1,603人

内容：桜田中学校の生徒が制作した美術の優秀作品を展示。

2 教育普及

(1) 市民発掘室内編

夏の発掘調査への参加だけでなく、調査報告書の作成も市民参加で行っていくことを目的に、月1回程度開催。土器の測定、出土場所や調査結果に基づく、遺構の特徴を文章や図面にまとめる作業等を行った。

参加者数：延42人

期日：10月24日（土）	9人
11月28日（土）	7人
12月19日（土）	5人
2月6日（土）	5人
2月27日（土）	7人
3月27日（土）	9人

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため9月まで中止し、10月から再開した。

(2) 月例映画会

毎月第3土曜日に開催。これまで午前10時から子ども向け、午後2時から一般向けの映画を上映していた。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、9月まで中止した。10月から再開し、一般向け一本のみの上映とした。

新型コロナウイルス感染症対策として、参加人数の制限、参加者へのマスクの着用・検温・手指消毒、席を離しての会場設営と換気を行った。

参加者数：延46人

10月17日 参加者：5人

その時歴史が動いた 「本能寺の変 信長暗殺」

11月21日 参加者：6人

同 「羽柴秀吉 謎の敵前退去」

12月19日 参加者：5人

同 「伊達政宗 百万石への挑戦」

1月16日 参加者：9人

同 「日中・太平洋戦争編 満州事変」

2月20日 参加者：10人

同 「三国同盟締結」

3月20日 参加者：11人

同 「日中・太平洋戦争編 戦艦大和沈没」

(3) 博物館実習

大学の要請により、学芸員資格取得のための博物館実習生の常設展訪問を受け入れた。

実習生：愛知淑徳大学（4人）

(4) 団体対応

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、本年度は団体利用の受付は基本的に行わなかった。

ただし、10月16日（金）に FAX で岩倉市立岩倉中学校の職場訪問（実際の来館はなし）を受け入れた。質問状を送信してもらい、学芸員が回答した。

さらに1月15日（金）は桜田中学校1年生6名が地域雑誌作成のためのインタビューに訪れ、対応した。

3 地域連携

(1) 名鉄ウォーキング企画（お散歩コース）

期日：1月12日（火）～2月28日（日）

主催：名古屋鉄道株式会社

コース：本笠寺駅～神宮前駅

内容：期間中、参加者がコース地図をもとに散策し、健康づくりに繋げるためのイベントの立ち寄り箇所として協力した。

4 資料の保存処理業務委託

2013（平成25）年の第53次発掘調査で出土した「B29尾翼破片」の劣化を防止し、後世に伝えるため、「公益財団法人 元興寺文化財研究所」に保存処理を依頼した。

①クリーニング②脆弱部分の強化③防錆④シール部分の剥落止め⑤報告書作成等、関連する必要な作業を行うため、2020（令和2）年9月30日（水）に搬出した。翌年3月12日に返却され、4月に再び展示した。



B29 尾翼破片

Ⅱ 利用状況

1 利用者数など

(1) 展示会別利用者数

展示会名	会期	日数	入場者数	一日平均
本館常設展 「見晴台遺跡展－見晴台で暮らした人々－」	通年	247日	12,381人	50人
本館常設展「見晴台の守り展」	通年	247日	12,381人	50人
住居跡観察舎パネル展「原始・古代の住居」	通年	247日	12,381人	50人
住居跡観察舎パネル展 「弥生時代（紀元前4～3世紀頃）の世界各地の建造物」	通年	247日	12,381人	50人

(2) 月別利用者数

月	開館日数	入館者数			一日平均	団体	
		高校生以上	中学生以下	計		団体数	人員
	日	人	人	人	人	件	人
4月	0	0	0	0	0		
5月	0	0	0	0	0		
6月	24	808	114	922	38		
7月	26	779	186	965	37		
8月	25	744	148	892	36		
9月	26	762	107	869	33		
10月	26	1,048	184	1,232	47		
11月	25	1,010	345	1,355	54		
12月	23	877	366	1,243	54		
1月	23	844	291	1,135	49		
2月	24	1,540	488	2,028	85		
3月	25	1,389	351	1,740	70		
合計	247	9,801	2,580	12,381	50		

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年6月1日（月）まで休館した。また、本年度は団体利用の受付は基本的に行わなかった。

2 資料の貸出

年間貸出 1件・2点

名古屋市博物館

3 特別利用

資料の撮影 2件 研究調査 1件（名古屋工業大学 1人）

資料調査 1件

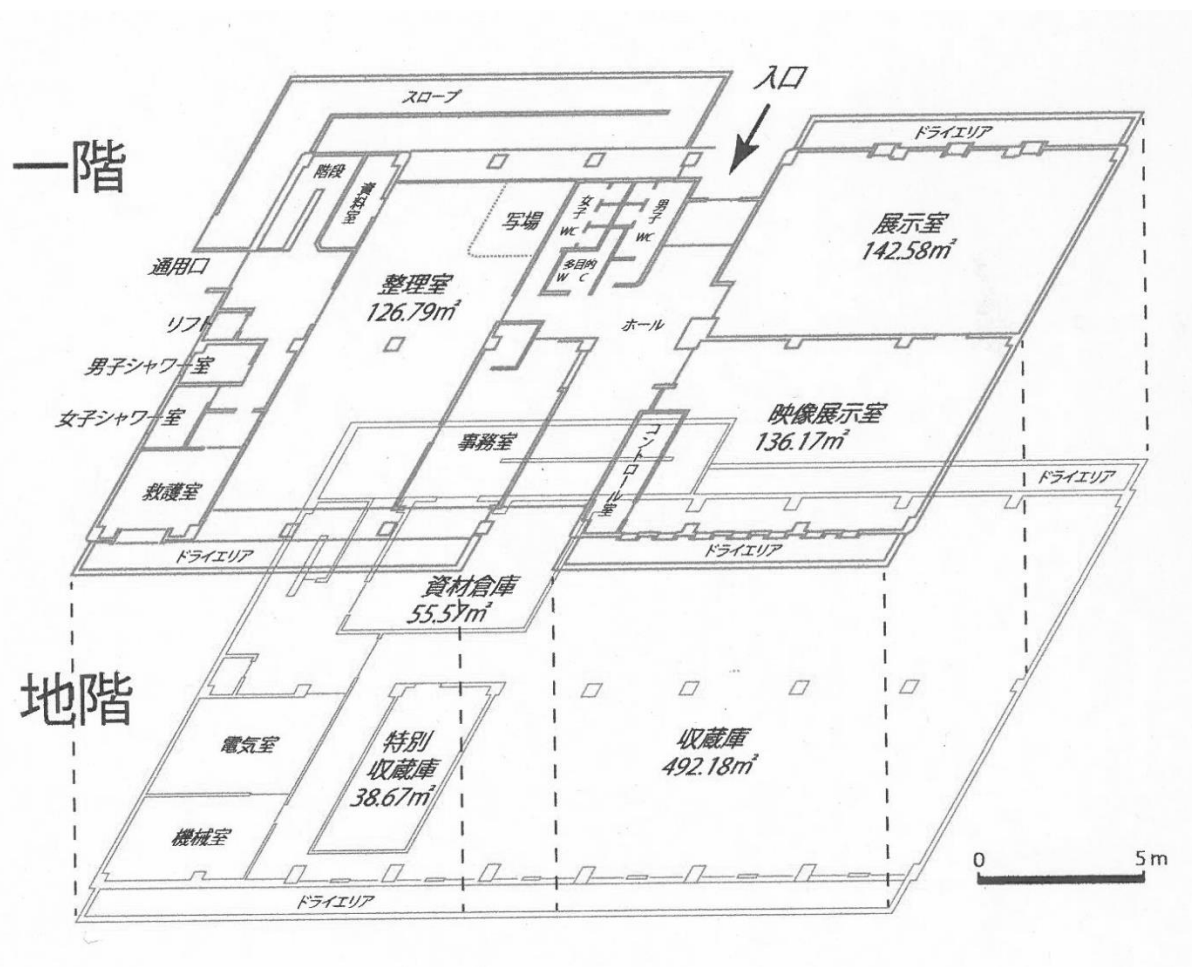
Ⅲ 施設の概要

項 目	内 容
条 例	名古屋市見晴台考古資料館条例（昭和54年7月18日条例39号）
名 称	名古屋市見晴台考古資料館
設 置 場 所	名古屋市南区見晴町47番地（笠寺公園内）
開館年月日	1979（昭和54）年10月11日
博物館登録	1980（昭和55）年1月25日（登録第8号）
建 物	公園使用許可面積1,902㎡

（1）本館

項 目	内 容
構 造	鉄筋コンクリート造地上1階・地下1階
建築面積	672㎡
延床面積	1,381㎡（1階658㎡、地階699㎡、中2階24㎡） 展示室142.58㎡、映像展示室136.17㎡、収蔵庫492.18㎡、特別収蔵庫38.67㎡

見晴台考古資料館 本館 各室配置図



(2) 分室（西館）

項 目	内 容
構 造	軽量鉄骨造平屋建
建築面積	148㎡
概 要	遺物整理作業展示室として、1996（平成8）年から使用開始。

公園内の関連施設

見晴台考古資料館のある笠寺公園は、「遺跡のある公園」として名古屋市緑政土木局によって整備され、遺跡にかかわるいくつかの施設が設置されている。

施設名	概要	構造	備考
住居跡観察舎	発掘調査によって出土した状態が見学できる施設。内部には遺構の型取りによる原寸大の住居跡の複製を設置し、住居跡のうち1軒を推定復元。1988（昭和63）年6月15日公開。	鉄骨造平屋建 面積365㎡	復元住居は経年変化で傾きがひどくなったため、2013（平成25）年10月に取り壊し。2014（平成26）年10月市民参加による「竪穴式住居復元プロジェクト」にて再構築を行った。
濠再現コーナー	資料館南側の弥生時代の濠跡が道路によって寸断されていた地点に、遺構保存のための土留め壁を兼ねて、濠の断面を原寸大に復元。1989（平成元）年4月5日公開。	コンクリート・モルタル・表面擬土・アスファルト	濠の大きさは幅およそ5m、深さおよそ4m
弥生の森	弥生時代の生活に関係の深い樹木を、都市緑化の推進と弥生時代の学習に役立てるために植栽。1989（平成元）年4月5日公開。		樹木（141本）の種類はヤマモモ・スダジイなど

IV 組 織

組 織

